

船舶事故調査報告書

平成27年3月26日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成25年12月25日 11時15分ごろ～13時18分ごろの間）
発生場所	不明（青森県大間町大間港北西方20km付近～大間港港口付近の間）
事故調査の経過	平成26年1月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{かいうん} 開運丸、9.1トン AM2-5470（漁船登録番号）、個人所有 13.10m (Lr) × 3.40m × 1.00m、FRP ディーゼル機関、423kW（動力漁船登録票による）、平成5年6月11日
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年5月22日 免許証交付日 平成20年8月13日 （平成26年7月17日まで有効） 甲板員 男性 26歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成18年9月8日 免許証交付日 平成23年1月20日 （平成28年9月7日まで有効）
死傷者等	行方不明 1人（甲板員）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長及び甲板員が乗り組み、大間港北西方沖の漁場でまぐろ一本釣り漁を終え、同港に帰港するため、船長が操舵室で操船に当たり、南東進した。 船長は、平成25年12月25日11時15分ごろ、大間港北西方20km付近で、船首甲板で操業の後片付けを行う甲板員を認めた。 船長は、13時18分ごろ、大間港港口付近で、入港作業に甲板員が現れなかったのが不審に思い、船内を捜索したが見当たらないので、甲板員が落水したものと思い、所属漁業協同組合に事態を伝え

	<p>て、捜索を開始した。</p> <p>甲板員は、僚船、海上保安庁の巡視船及び航空機による捜索が行われたが、発見されず、行方不明となった。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北西、風力 6、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1m、水温 約10℃</p>
その他の事項	<p>甲板員は、漁船員の経験が約7年で、持病がなく、本事故当時、体調不良を訴えていなかった。</p> <p>甲板員は、ふだん、漁場を発進してから約10分間、船首甲板で操業の後片付けを行い、その後船員室で休憩していた。</p> <p>甲板員は、操業中に着用していた救命胴衣を、漁場を発進するときに脱いでいた。</p> <p>本船は、操舵室がほぼ船体中央にあり、操舵室の後ろに機関室、船員室と続いており、船員室は船尾方に出入口が設けられていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>甲板員は、行方不明となった。</p> <p>本船は、大間港北西沖の漁場から同港に向けて帰航中、11時15分ごろ、大間港北西方20km付近において、船長が、船首甲板で後片付けを行っている甲板員を認めた後、13時18分ごろ、大間港港口付近において、甲板員の姿が見えないことに気付き、船内を捜索したが見当たらなかったことから、この間において、甲板員が、落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、大間港に向けて帰航中、甲板員が、落水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲板上に出る際は、救命胴衣を着用すること。

付図1 事故発生経過概略図

